

わかると快感!

Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

江戸時代末・明治時代前半の情報の伝わり方とは?

とうきょうだいがく 1992ねん にほんし
(東京大学 1992年 日本史)

絵本プレゼントキャンペーン

幼児・低学年対象

ご希望の絵本1冊を抽選で500名様にプレゼント!

Z会 絵本

検索

情報の伝わり方がどのようにあったのかは、その時代を理解するうえで重要な視点です。江戸時代末・明治時代前半において、人々がどのように情報を得てきたのか、次の語句を使って説明しなさい。

瓦版 別段風説書 電信
横浜毎日新聞 新聞紙条例

最初のメディアが誕生したとき

「情報の伝わり方の変遷」が今回のテーマです。現在、私たちの周りには、新聞▽ラジオ▽テレビ▽インターネット……と、さまざまな「情報を伝えるもの、つまりメディアがありますが、そのうち、最初のメディアである新聞が生まれたのが、今回問題になっている「江戸時代末・明治時代前半」の時期になります。そのことを踏まえながら、問題をみていきましょう。

伝聞中心の江戸時代

江戸時代まで、人々には政府からの命令が伝えられるだけで、「情報」と言われるものはほとんど届きませんでした。それを伝えるようにした最初のものが、瓦版です。瓦版は、町の事件などを記した木版刷りの紙のことで、天変地異や心中事件などが取り上げられることが多くありました。ネタは伝聞で仕入れることがほとんどだったということもあり、ガセネタも多かったとか……。道端で、売り子が内容を読み上げながら売り歩いたので「読売」とも呼ばれました。



イラスト・瑞木匠

じょうほうでんたつてんかん 情報伝達の転換

別段風説書は、長崎にいるオランダ商館長に政府が提出させていた、海外情報の報告書です。江戸時代には外国との交流は厳しく制限されていたため、別段風説書などの海外情報も政府により管理されていたのですが、江戸時代末期になり政府の力が弱まると、そうした情報も瓦版で人々にもれ伝わるようになってきました。

くちほうどろ 口コミから報道へ

ペリーの来航により国が開かれ、江戸時代が終わると、さらに情報の伝達は促進されていきます。1871年には長崎～上海間に海底の電信が

つくられ、海外の情報がより早く、正確に伝わるようになりました。

同じころ、最初の日刊紙として横浜毎日新聞が発行されました。ほかにも数多くの新聞が登場し、口コミという瓦版の時代から、報道という新聞の時代に、一気に転換していったのです。

じょうほうでんたつととりしまり 情報の伝達と取り締まり

新聞の登場により、人々に多くの情報が伝わるようになると、新聞はその情報を元に政治的な意見を交わす場にもなっていました。政府に反対するような意見も見られるようになり、政府はそのような意見や反対意見につながるような情報を取り締まるために、新聞紙条例という法令を作りました。これ以降、太平洋戦争が終わるまで、政府による情報の取り締まりはどんどん強まることとなります。

【Z会・河原井彩】

こんかいのこうくん ! 今回の教訓

江戸時代ころまでは、手に入る情報は非常に少なく、正しい情報はさらに少ない状態でした。さまざまなメディアが発達した現代では、多くの情報に触れられる分、必要な、そして正しい情報を選び、活用する力が求められます。



河原井彩さん 2007年にZ会に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。